

1. 単元 「からだ げんき！」

2. 指導についての考え方

○児童の実態

本学年は、男児〇〇名、女児〇名で構成されている。障がいの種類や程度はさまざまであり、情緒面・行動面・体調面などで個に応じた配慮や支援が必要である。

着脱・食事などの日常生活における活動も一人でできる児童から全介助の児童まで幅が広い。体の動きに関しては、歩・走・跳がスムーズに出来る児童もいる反面、体幹を支えたりバランスよく身体を動かすことが難しく少しの段差でもつまずいたり、走って転倒したりする児童もいる。

また自分の思いを相手に言葉で伝えることができる児童や、言葉による指示通りに行動できる児童、さらには表情、喃語、動きで自分の気持ちを表す児童などコミュニケーションのとりかたもさまざまである。

全体的には、集団での活動を好み少しずつ集団としてまとまってきており、友だちとの関わりも随所で見られるようになってきた。友達の活動を見て、自分もやってみようと真似する児童や友だちの活動を応援したり助けようとしたりする姿も時折見られるようになった。

○単元設定の理由

小グループにおける対教師の指導では緊張感を持ち、活動を楽しむことが難しい児童も多い。そこで本単元では、集団の中で友だちと一緒に活動し、体を動かすことの楽しさを十分に味わって欲しいと考えている。まずピアノ伴奏により、その曲に合わせて自然に体を動かし身体のリラックスをはかりたい。次の活動では、姿勢の安定やボディイメージの促進、日常生活に必要な基本の動きを模倣遊びの中から培っていきたいと考えている。また「チャレンジしよう」では、一人ひとりのめあてに沿って動きの質を高めるため、幅広平均台・巧技台（1本橋・2本橋）・長い平均台を設置しステップアップして取り組む。

○支援にあつての考え方

学習内容の工夫

- ・学習カードを黒板に掲示し、活動内容が見て分かるようにする。
- ・「あるこう、はしろう」では、ピアノで伴奏することにより、耳からの刺激と言葉による指示でスムーズに体が動けるようにしたい。
- ・一つひとつの活動内容を時間をかけてゆっくり行い、内容に不安感をもたないようにする。
- ・毎回同じ動きを繰り返し行うことにより、活動に見通しが持て、動きが身に付くようにする。
- ・簡単な動きから徐々に難しい動きに移行していく。
- ・活動の最後に、頑張ったことを発表し達成感・成就感を味わわせるようにしていく。

学習集団の工夫

- ・前半は一つの集団で行い、後半は「チャレンジしよう」として4つの場を設け、自分でチャレンジしたい活動を選び行うようにする。

学習環境の工夫

- ・「あるこう、はしろう」での動きの手だてとなるように、コースを黄色のテープで作る。
- ・「まねっこしよう」は、自分のマットを置き、その上で行うようにする。
- ・スタート地点には、足型マットを置きスタートの位置を明確にする。

3. 単元目標

- ・自分から身体を動かし、友だちや先生と一緒に楽しく活動できる。
- ・日常生活に必要な基本的な動作がスムーズにできる。
- ・自分からやってみたい活動を選び、課題に取り組むことができる。

4. 児童の実態と目標

	A 児	B 児
個別の指導計画の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・状況を把握しながら落ち着いて活動することができる。 ・一方的にならず、相手や場に応じたコミュニケーションができる。 ・手指の巧緻性が高まる。 ・注意を持続して、課題を最後までやり遂げることができる。 ・リラックスして体の緊張をほぐすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな姿勢や基本的運動・動作を通してバランスや移動能力を高める。 ・手指の巧緻性を高める。 ・日常生活でよく使う言葉やものの名前を理解し、言語で表現できる。 ・いろいろな人と言葉によるコミュニケーションがとれる。
単元に関わる実態	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの人は気になるが、序々に活動に集中できるようになってきている。 ・活動に対して緊張することが少なくなり、対象をよく見ようとするようになった。 ・自分のボディイメージが曖昧なため、正確に模倣できにくい。 ・線上を歩いたり上体を起こして走ったり等の動きができにくく、全体的に粗大行動がぎこちない。 ・声をかけられたり訂正を促されると、動きが止まったり緊張を伴ったりすることがある。 ・同じ活動を繰り返し行うことが好きである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歩行が不安定であり、自ら周囲を確認せずに移動することがあるので移動や活動する時には、支援が必要である。 ・長時間自分で姿勢を保持して床に座ることが難しい。 ・ジャンプは難しいが、教師の真似をして体を上下に動かすことができる。 ・体を動かす活動が好きで、平均台にも自分から上がろうとするなど意欲的である。
単元の個別目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友だちの様子をしっかり見て真似ようとする。 ・自分から活動を選んで、楽しく時間いっぱい体を動かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師や友だちの動きや様子を見て、真似をして、体を動かそうとする。 ・日常に必要な基本的な動作が、バランスよくできる。
支援の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の準備を手伝うことで、能動的に学習を意識し期待感を持たせる。 ・「あるこう、はしろう」では歩くコースをテープで示して分かりやすくし、耳に馴染んだピアノの曲で動くようにする。 ・「まねっこしよう」の時は、模倣しやすい動きを繰り返し、言葉を添えながら楽しんで活動できるようにする。 ・不安そうな場面では個別に声をかけたり、横について一緒にゆっくり活動させる。 ・「チャレンジしよう」では、十分な時間、活動を保証すると共に、意欲的に順番やコーナーを変えたりして体験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「あるこう、はしろう」では、ピアノ伴奏に合わせて体を動かすことにより心身のリラックスを図る。また「止まれ」の見通しをもつためにピアノ伴奏にインパクトのある曲を入れ、言葉だけでなく耳からの支援を行う。 ・「まねっこしよう」では、それぞれのポーズを日常生活の動作から取り入れ自然にできるようにするとともに、横で見本となる動作を大きくやって見せる。 ・「チャレンジしよう」では、B児のしたいコーナーを選ばせ、必ず付き添い、バランスが崩れた時は体を支える等の支援を行う。

5. 指導計画

一学期	二学期	三学期
○活動の流れを知り，教師や友だちを意識する。 ○コースを歩く，動きを模倣する。 遊具で遊ぶことに慣れる。	○教師や友だちと関わって活動する楽しさを知る。 ○コースを歩いたり，教師の動きを模倣したり，遊具で遊ぶ中で，自分の身体の動きを意識する。	○教師や友だちと関わる中で進んで活動することができる。 ○コースを歩いたり，教師の動きを模倣したり，遊具で遊ぶ中で，新しい身体の動きに挑戦することができる。

からだ げんき！

〔あるこう，はしろう〕

- ・黄色の線を意識して，歩いたり，走ったりする。
- ・ピアノの音を聞いて，動きをやめ，指示を聞いて動く。
- ・教師や友だちの姿勢や動きを見て，自分なりのイメージで動く。

〔まねっこしよう〕

- ・自分のシートの上で活動する。
- ・立位で教師の動きの模倣をする。
- ・教師や友だちと二人組で動きの模倣をする。
- ・座位で動きの模倣をする。

〔チャレンジしよう〕

- ・自分のやりたい遊具のコーナーを選択し，スタートの位置を確認して行う。
- ・パイロンをよけたり，またぎ越したり，勾配のついた平均台を歩く。
- ・自分で考えた動きをする。

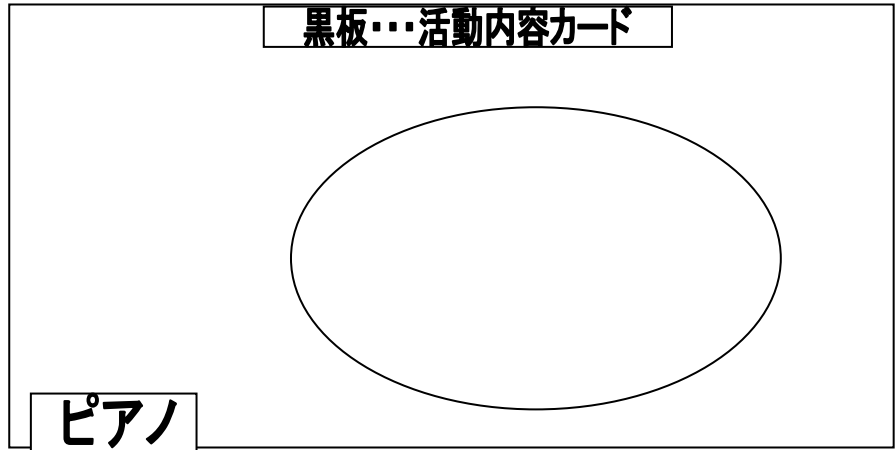
〔はっぴょうしよう〕

- ・みんなの前で、今日の「チャレンジしよう」でした動きを発表する。
- ・友だちの発表をよく見て、頑張りを認める。

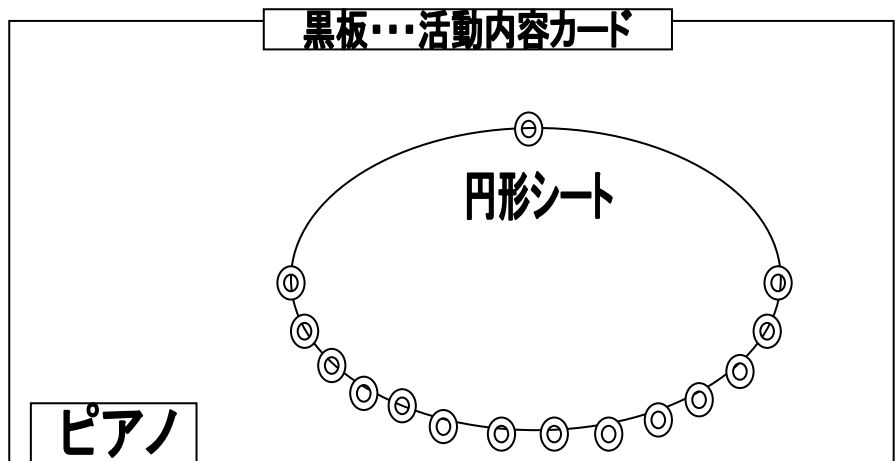
6. 本時について

○場の設定

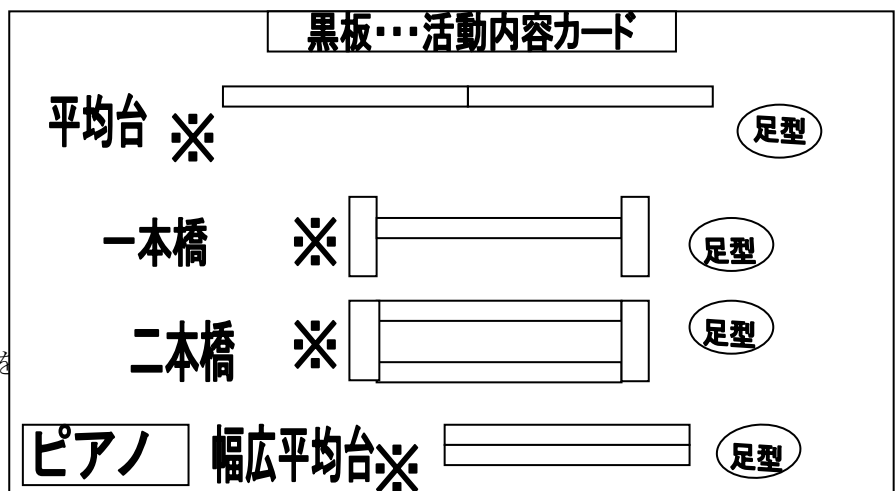
「あるこう、はしろう」



「まねっこしよう」



「チャレンジしよう」



「はっぴょうしよう」
○児童に発表が見やすいように進行方向を逆にする。そのために足型を※の位置に移動する。

○準備

活動内容カード、円形シート15枚、平均台2、幅広平均台1、巧技台（一本橋、二本橋）足型マーク、パイロン（小）、円柱ブロック

(1) 本時の目標

- ・自分から体を動かし、友だちや教師と一緒に楽しく活動できる。
- ・自分がやってみみたい活動を選び、課題に対して自分なりの動きを工夫して取り組むことができる。

(2) 展開

	めざす姿	評価
A 児	<ul style="list-style-type: none"> ○教師や友だちの動きや様子をしっかりと見て、真似ようとする ○自分から活動を選んで、時間いっぱい積極的に体を動かすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○「まねっこしよう」の二人組では、相手と動きを合わせてタッチしたり手を伸ばしたりできる。 ○「チャレンジしよう」で平均台のパイロンをまたぎ越したり、避けたりしながら渡ることができる
	学習内容と活動	支援の工夫
	<ol style="list-style-type: none"> 1, 始めのあいさつをする 2, 本時の学習内容を確認する 3, 「あるこう・はしろう」をする <ul style="list-style-type: none"> ・歩く→方向転換→歩く ・走る→方向転換→走る ・歩く（歌を歌って） 4, 「まねっこしよう」をする <ul style="list-style-type: none"> ・立位 （足踏み、ジャンプ、体の部位） ・座位 （体の部位） 5, 「チャレンジしよう」をする <ol style="list-style-type: none"> ①幅広平均台 ②1本橋 ③2本橋 ④長い平均台 <ul style="list-style-type: none"> ※平均台にパイロンを置いて渡る。 ※進行方向や足の運び方、勾配などを変えて行う。 6, 「はっぴょうしよう」をする 7, 終わりのあいさつをする 	<ul style="list-style-type: none"> ※学習に期待感を持たせるために、学習の準備を友だちや教師と一緒に学習の準備をする。 ○学習の始まりを意識できるように、座る位置を示し、体操座りをすることを促す。 ○学習の見通しが持てるように学習カードを提示して、読める児童は声に出して言うように促す。 ○楕円形の黄色の線の上を歩くように意識を持たせ、動きの変わり目は、インパクトのある曲を入れてわかりやすくする ○軽快なピアノ伴奏に合わせ、のびのび活動できるように手を頭の上に置いたり、広げたりして動くよう支援する。 ○演示する教師が見えやすいように、黄色い線の半円上に自分のマットを置いて座るようにする。 ○スムーズにまねっこできるように、出来る動きや簡単な動きをくり返し行う。 ○体の部位で曖昧な箇所があれば、近くで声をかけたり、ちょっと触れたりして確かめさせる。 ○児童が自由に選択して活動する時間をゆっくりとる。活動が途切れないように、意図的に順番を変えたり、別のコーナーに誘ったりする。 ○難しいそうな課題の時は、先にできる児童にやってもらい、見た後で取り組めるように配慮する。 ○座り込んだり気持ちが高揚して落ち着かなくなった場合は、ゆっくり待つようにする。 ○成就感を持たせるために、みんなの前で発表する場を設定して、友だちの動きを見たり認められたりすること経験させる。 ○学習の終わりを意識させるために、背中を伸ばし体操座りをしてあいさつをする。

(2) 展開

	めざす姿	評価
B 男	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師や友だちの動きや様子を見て、真似をする。 ○ 足元を見て確かめながら、バランスを崩さないように歩く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ マイマットから片足を離して、一周回ることができる。 ○ 平均台の上を、足をそろえないで一歩ずつ歩くことができる。
	学習内容と活動	支援の工夫
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 始めのあいさつをする。 2. 本時の学習内容を確認する。 3. 「あるこう、はしろう」をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歩く→方向転換→歩く ・ 走る→方向転換→走る ・ 歩く（手拍子、腕上げ、歌いながら） 4. 「まねっこしよう」をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 立位（足踏み、ジャンプ、体の部位） ・ 座位（体の部分） 5. 「チャレンジしよう」をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 平均台、幅広平均台、巧技台（1本橋、2本橋）を自分で選んで活動する。 ・ ひとりで渡る。 ・ パイロンをよけたり、越して渡る。 6. 「はっぴょうしよう」をする。 7. 終わりのあいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習の始まりを意識できるように、座る位置を示し、体操座りをすることを促す。 ○ 学習カードを見るように声をかけて、友だちが読む声に耳を傾けるように促す。 ○ 「黄色の線」の上を歩くように声をかける。 ○ ピアノ伴奏にインパクトのある曲想を入れて「止まれ」の合図にする。 ○ ピアノ伴奏に合わせて歌ったりハミングして、リズムに乗って歩けるように支援する。 ○ 反対方向への歩行や「止まれ」の合図ができていない時は、声をかけたり手を取って動作を伝える。 ○ 指示する教師が見えやすいように、常に自分のマットの上で活動するように促す。 ○ 体をまっすぐにして座れない時は、後ろから支えて体の軸が揺れないようにする。 ○ みんなから遅れてでも、動きが出来た時は賞賛し、難しい時は横で見本となる動きを大きな動作でやるようにする。 ○ 挑戦したいコーナーを選択し、できるだけ一人で活動できるようにする。その際、転倒や落下に注意しながら必ず横で様子を見ておく。 ○ 同じコーナーばかりしようとする時には、別のコーナーにも挑戦するように促す。 ○ 平均台の上に片足ずつ乗せて、ゆっくり歩くように声をかける。 ○ 友だちの動きを見るように声をかけるとともに、一緒に拍手して友だちの良かったところに気づくようにする。 ○ 学習の終わりを意識できるように、体操座りをしてあいさつをする。